

Photo by Takashi Fujimoto



●ささき・しんぺい

1982年生まれ。秋田市出身。秋田市立泉中学校、秋田県立秋田南高校、東京学芸大学を経て桐朋学園大学で指揮を学ぶ。2010年、東京シティ・フィルの指揮研究員就任を皮切りに、プロの指揮者としてのキャリアをスタートさせる。これまでにヨーロッパ各地での国際指揮マスタークラスに参加したほか、2013年から2014年にかけてミュンヘンにも居を構え、さらなる研鑽を積む。映画「マエストロ」での西田敏行氏への指揮指導、元モーニング娘の安倍なつみ氏と共演など、多方面に活動の幅を広げている。

公式HP：shimpei-sasaki.com

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
アソシエイト・コンダクター

佐々木 新平

音楽を教えてくれるもの

「これがベートーヴェンの田園交響曲の景色だよ」

ルーマニアのトランシルヴァニア地方を訪れた際、私の師匠がつぶやいた一言。ただただ広い牧草地に遠くかすかに見える羊たち、目の前にはヨーロッパの原風景がありました。

交響曲第6番『田園』はベートーヴェンの田舎の生活での思い出、感情を音楽に表現した曲です。田舎に到着した時の喜ばしい気持ち、小川の景色、そこで生活する人々の様子、突然やってくる嵐と雨がもたらす恵み、感謝が5つの楽章で表現されています。

作曲家は楽譜というかなり限られた媒体でしか自らの世界を残すことができませぬ。楽譜という平面上に秘められた作曲家の世界を余すことなく表現するのが、私たち音楽家の仕事です。そのためには私たちはそれぞれの作曲家独自の世界観を知らなければなりません。そして、その世界観をつくるものこそが、作曲家の育った土地そのものなのです。

音楽はその土地の風土や文化を色濃く反映します。私は国内外問わず、初めてその土地を訪れた際には必ず市場に行くようにしています。市場にはその土地の生活が

凝縮されているからです。並んでいる食べ物を見たり、人のやりとりを見たり、飛び交う言葉に耳を傾けたり。そうしてその国、土地を体感します。そして市場でも一つすること。それは、ご当地名物を食べることです。繊細で食材豊富なフランス料理にはやはり色彩豊かなフランス音楽が、大味で堂々としたドイツ料理からは骨太なドイツ音楽が、赤や黄色中心のカラフルなスペイン料理からは情熱的で心躍るスペイン音楽が聴こえてきます。そう、市場は今まで自分になかった表現の引き出しを増やす格好の勉強の場です。

秋田の土地も私の音楽の土台を作ってくれています。父方の実家は湯沢市の農家で、小さい頃は農作業を手伝ったりしていました。土のにおい、収穫の喜び、季節の移り変わり。今でもたくさんの美しい景色が鮮明な記憶として残っています。都会で育った人には得ることのできない経験です。そのおかげで、もちろんベートーヴェンの見た田園風景とは違いますが、気持ちには共感できます。突き刺すような寒さ、地吹雪、家のぬくもり、雪の降る夜の静けさ。そんな秋田の冬の日常は、北欧やロシアの音楽への共感につながっています。その共感が実際にヨーロッパ

の土地に立つことによって確信に変わる。そして、それが自らの音楽表現となっていくのです。

師匠はこうも言いました。「人間は想像する生き物だけど、実際に経験した物事しか表現できない」

秋田の地で得た経験は、自ずと指揮者としての私の今を作ってくれています。楽譜を追って練習するだけでは到底知り得ない世界を教えてくれました。その豊かな秋田の担い手として中心にいらっしやる読者の皆さまが、これからもずっと秋田の原風景を守り続け、より豊かなものにしてくださることを願っています。



ドレスデンの聖母教会前



バルセロナのサン・ジョセップ市場の様子